

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における
沖田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

沖田 中学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B、理科)結果

		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
平成 2 5 年度	本市	74. 7	65. 0	60. 3	38. 2	
	全国	76. 4	67. 4	63. 7	41. 5	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	77. 2	47. 6	62. 4	54. 4	48. 6
	全国	79. 4	47. 6	67. 4	59. 8	51. 0
平成 2 7 年度	本市	73. 9	63. 1	61. 6	37. 7	50. 0
	全国	75. 8	65. 8	64. 4	41. 6	53. 0

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全国平均より下回っている。全国平均の正答率が低い問題においては、本校の正答率や無解答率はさらに下がっている。領域別にみると、「書くこと」の正答率がかなり低くなっている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	目的の応じて要旨を捉える問題は、正答率が高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	領域「書くこと」について、かなり努力が必要である。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	全国平均より下回っている。国語Aと同様に、全国平均の正答率が低い問題においては、本校の正答率や無解答率はさらに下がっている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く問題の正答率が高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	記述式の問題に関しては、無回答率が全国平均より高い傾向にある。「書くこと」について努力が必要である。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均より下回っているが、全国平均よりも正答率が高い問題がいくつかある。正答率の低い問題は、無回答率も高くなっている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	文字を用いた式で数量の関係を説明するための構想を理解する問題や反比例のグラフを選ぶ問題は正答率が高い。	下回っている
	努力が必要な問題	領域「図形」について、かなり努力が必要である。	

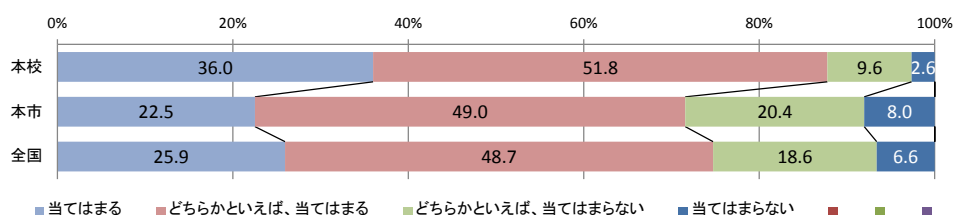
数学B	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回っており、全体的に努力を要する。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	領域「関数」については、全国平均正答率を下回っているが、差が小さい。	下回っている
	努力が必要な問題	領域「図形」について、かなり努力が必要である。	

理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回っており、努力が必要である。無回答率が0%の問題が14問もあり、考えて答えようとする努力がうかがえる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	天気図から風向を読み取ったり、湿度を選んだり「地学」の領域において、全国平均正答率を上回っている問題がある。	下回っている
	努力が必要な問題	領域「生物的分野」について、かなりの努力が必要である。	

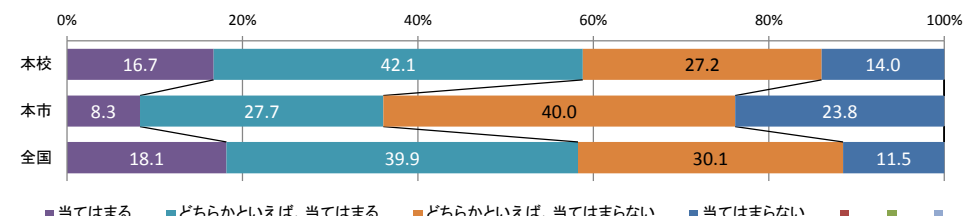
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

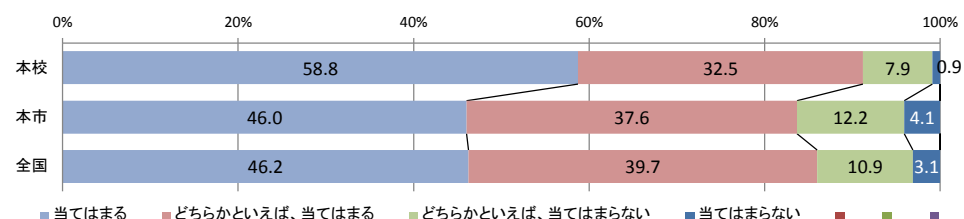
36
「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか。



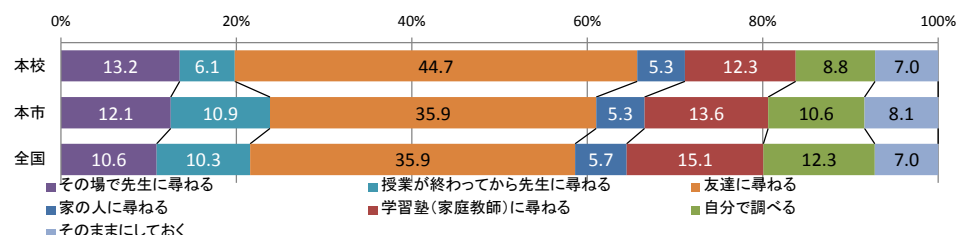
37
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



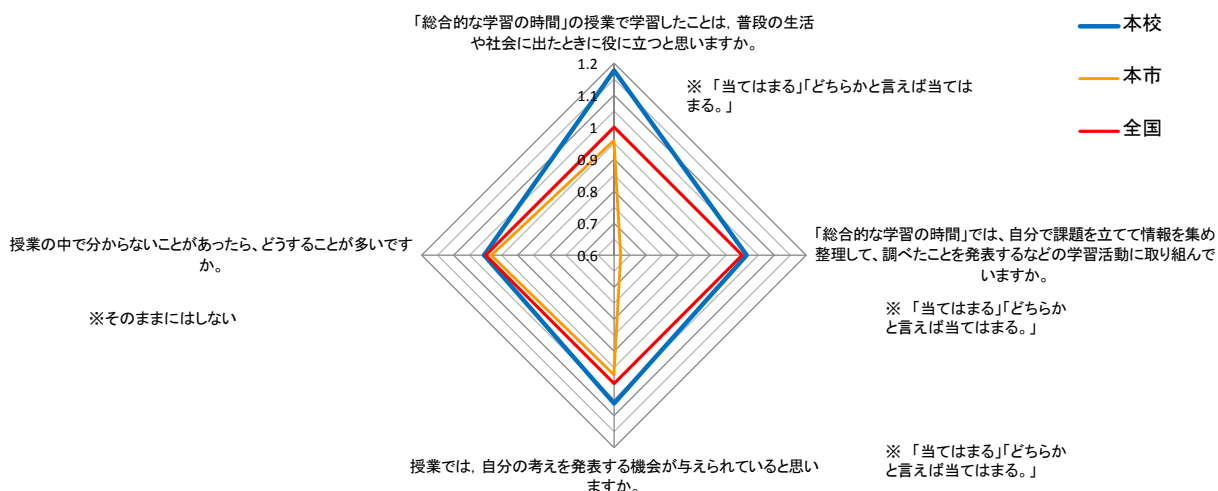
38
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。



47
授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



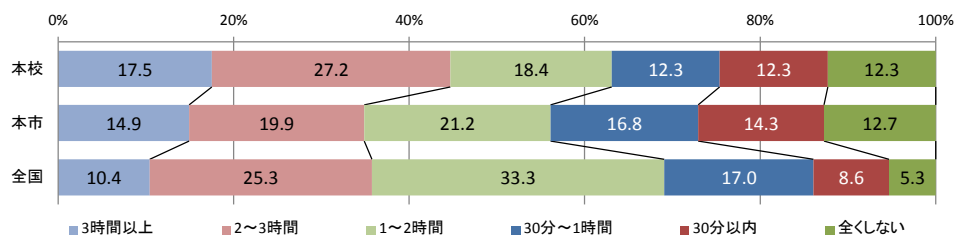
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・「総合的な学習の時間」の授業や学習内容が、生徒からの評価が高く、進んで学習することができている。
- ・自分の考えを発表する機会が、全国平均よりかなり多かった。しかし、生徒間での話し合い活動は少なくなっており、言語活動の充実を目指す、この双方が同時に伸びてくるように、授業の質を上げる研修が必要である。
- ・「書くこと」に関しては、学力調査の結果からも、無解答率が高くなる傾向があり、自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置付けたりして、「書くこと」を積極的に授業に取り入れる必要がある。
- ・話し合い活動は、全国の平均には及ばないが、職員研修等で、授業改善や授業研究を行うことで、年々活動する機会が増加してきている。授業のみならず、教育活動全体の中で、話し合い活動を推進していく必要がある。
- ・日ごろの指導により、「無解答」の割合が減り、自分の意見や考えを表そうとする生徒が増えてきた。

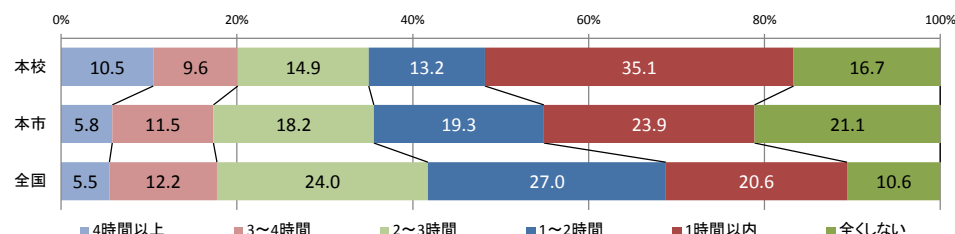
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

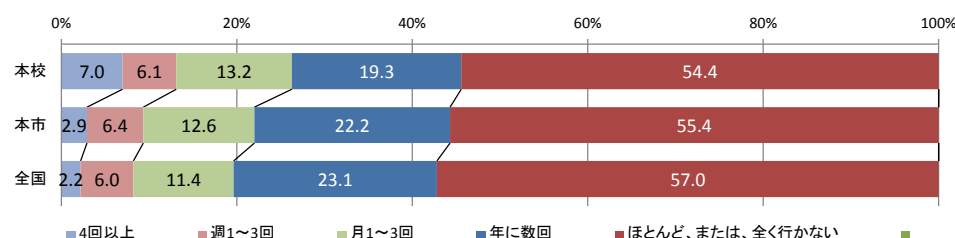
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



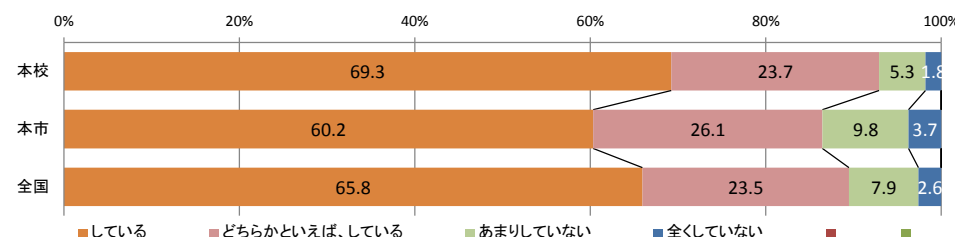
14
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



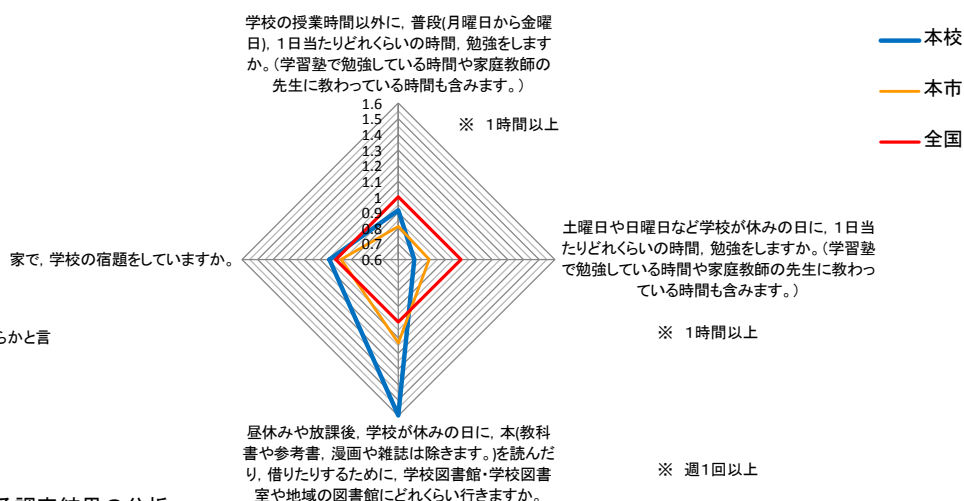
17
屋休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。



21
家で、学校の宿題をしていますか。



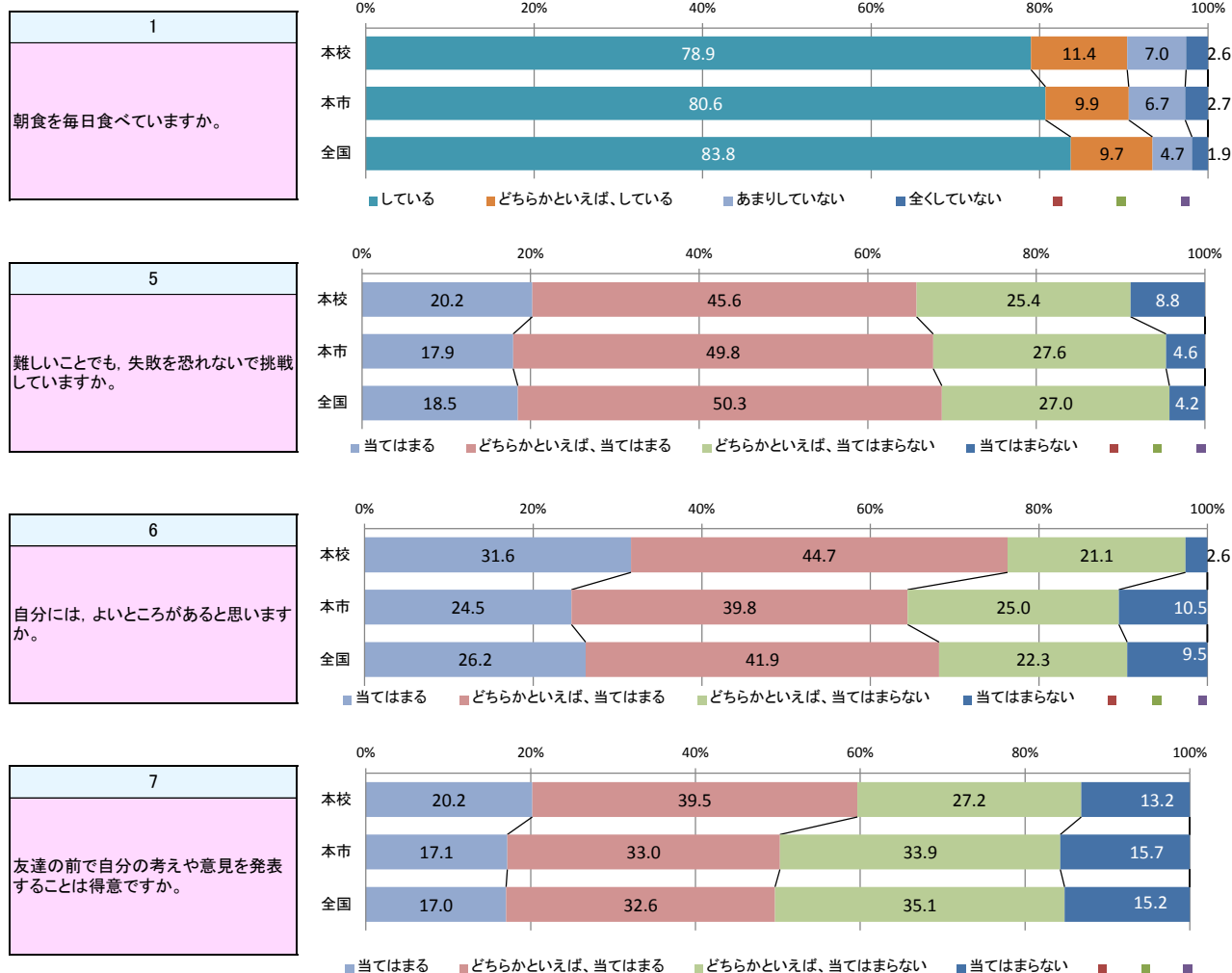
② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



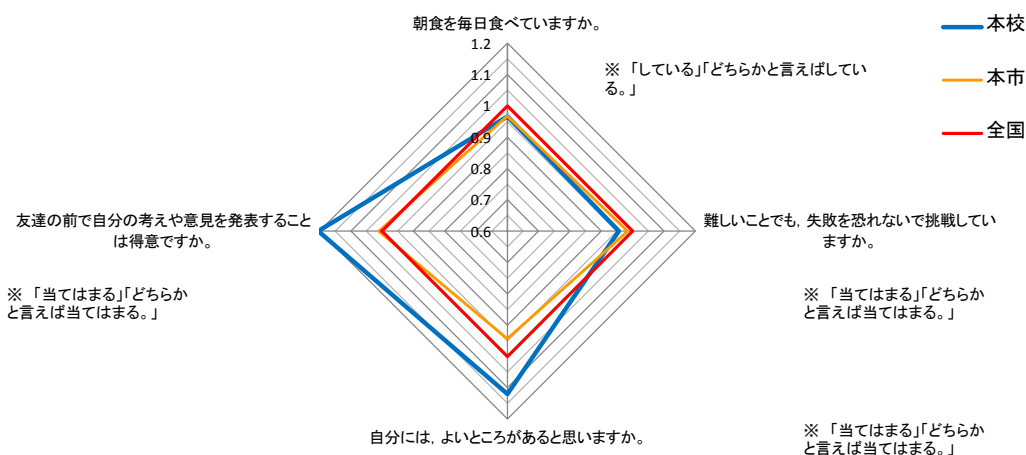
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

- ・昨年度読書活動推進校であったこともあり、読書をする時間がかなり多くなっている。
- ・家庭学習を3~4時間している生徒の割合が多い一方、30分未満や全くしていない生徒の割合も多く、家庭学習の定着は十分とはいえない。家庭学習チャレンジハンドブックの活用や学習委員会からの取組である「家庭学習マイスター」の呼びかけを行うなど、家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある。
- ・昨年度同様、テレビを見る時間やゲームをする時間が全国平均より長い。家庭での過ごし方について、手立てを考えていく必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

・毎朝朝食を食べることや同じ時刻に寝るなど、生活リズムが整っていない生徒の割合が、全国平均より若干高い。家庭学習と同様に、生活習慣についても指導が必要である。

・学習において自分の考えを伝えることは苦手であったが、友達との関わりの中では、自分の意見を述べたり、最後まで話を聞いたりできる生徒の割合は高くなっている。「自分には、よいところがある」という割合も高く、自分の考えや行動に自信を持っている生徒が多いと思われる。自信を持って行動することは良いが、過剰になりすぎないように気をつけて指導する必要もある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 学力向上のための朝自習、補充学習の見直し
 - ・定期考査予想問題の作成 ・朝自習コンクールの実施 ・学習定着を図る小テスト ・放課後の補充学習
- 学力向上に関する職員研修および公開授業
 - ・職員間で授業参観を行い、「アドバイスシート」を活用する。
 - ・グループ学習やペア学習など取り入れ、授業形態の工夫から、生徒に意欲を持たせる。
- 過去問題・Web問題・学校独自のプロジェクトの活用
 - ・単元末に過去の入試問題やWeb問題等を位置づけ活用する。
 - ・定期考査前に十分な計画の立て方を指導し、計画通り学習を進めていくようにアドバイスを行う。
 - ・英語音読暗唱ブック「Rainbow」の活用
 - ・学力アッププロジェクトを位置づけ、学校独自のテストで、学年ごとの推移を検証する。
- 新入生への入学準備段階での課題の活用

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 毎朝8時30分より「黙想タイム」を実施し、一日の目標を立てて、落ち着いた学校生活を送るように指導する。
- 生活委員会・保健厚生委員会等が、規則正しい生活習慣を呼びかけ、全校集会等で発表報告する。
 - ・遅刻点検 ・給食指導 ・残食調査と残食0(ゼロ)に向けた呼びかけ
- 家庭学習の定着を図る。
 - ・各教科における宿題、週末課題、自学ノート、英語暗唱音読カード等の継続指導。
 - ・家庭学習チャレンジハンドブックの確認と呼びかけ
 - ・学校便り、ホームページ、PTA理事会等による保護者への啓発
 - ・家庭学習マイスター賞への応募と呼びかけ
- 学習計画表の作成と記入の徹底を行う。
 - ・生活ノート等を使い、学習の計画と記録を記入、担任等が確認、アドバイス
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知徹底を行う。